

日 刊

# 新東京

NO. 3841

2005年  
6月 1日(水)

日本郵政公社  
労働組合  
新東京支部  
編集委員会

03-5690-2847  
内線 4163

## 60の節目とは

### 「JPU第60回全国大会を間近にして」

60という数は、何の節目なのか？

60才、人生で言えば定年退職・還暦である。

今年で60年。日本は今年、敗戦60年を迎える。

そんななか、日本のご近所である中国・韓国などアジア諸国との関係がギクシ

ヤクしてきている。

原因は、過去の失敗・反省にちつとも学ばない変人首相こと小泉首相の靖国神社公式参拝問題や「新しい歴史教科書をつくる会」が編纂した扶桑社歴史教科書の近代史の記述。また、日本政府の外交能力の低さな

どさまざまな要因が重なっている。

そこにきて、厚生労働政務官の森岡正宏が「極東国際軍事裁判は占領軍の一方的な裁判でありA級戦犯はもう罪人ではない」と発言が飛び出す始末である。このような発言はたびたび歴代首相・政府要人から出され、そのつど対応に苦慮しているではないか。

これは、何故なのだろう。敗戦から60年を迎える今年こそ、私たちの原点である「もの言えぬ国から戦後の民主化」「アジアの侵略国から非戦国」についても一度考え検証し次世代の若者につなぐ努力と運動が必要ではないだろうか。

労働組合の運動分野として労働条件・政治課題・平和の問題は統一的にやられなければならぬ。

今年、全通結成60周年目をむかえる。そして私は、政治・平和の運動分野について組合員の関心が弱くなってきているのではないかと感じる。

私たちの未来を考えるためには、過去をしっかりと見つめること。過去に学び未来に生かすことこそ必要なのではないでしようか。

JPU第60回全国大会を間近にして、ふと考えてしまいました。

「過去に目を閉じる者は、現在に対しても盲目となる。」  
ヘヴァイツゼッカー

## 青空のもとで・・・

5月25日～26日にかけて汐二会コンペ(旧鉄郵汐留分局出身)に参加してきました。

1日目は「那須小川カントリークラブ」でプレー。2日目は「ジュンクラシックゴルフクラブ」でロッジに宿泊し、プレーとなりました。退職されたOBのかたも多数参加があり旧交を暖めあいました。

毎年、この時期に宿泊コンペを開催して20数年続いています。改めて幹事の皆様には感謝したいと思います。

ゴルフとは自分自身との闘いである。それと同時に気の置けない仲間とのプレーは、本当にいいものだと感じました。

来年の開催が今から楽しみです。(S) (^^)

## 腰痛の原因は…？

最近流行っていませんか？  
**ぎっくり腰！**

退職者が3月31日に退職になって、課長代理の補充はされても現場の職員の補充は全くありません。職場の上司の方々は

『過員なんだからしようがない…。』

過員…？。

本場に各課過員状態なん  
でしようか？

特殊部では、4月と5月に  
かけて一特で四名、二特で  
二名、三特で三名の方がい  
わゆる腰痛で仕事を休んで  
しまいました。

原因は…？。

1,連日の深夜勤務の疲  
れが抜けきれない。

2,病休で休んでいる職  
員の為に他の職員が深  
夜勤を肩代わりして職  
場をまわしている。

3,退職者の穴が空いた  
ままで補充されていない。

4, JPSは現場から派遣  
という形をとっているが、  
結果、現場の稼働が減つ  
た。

※1特では、牛込局や、土浦局か  
ら大量に来る継越郵袋がかなり  
重い！



：と、様々な原因があります。疲れを取るために休みを出そうと思っても、稼働人員が少ないので、却下！

**ある人は「応援を出さないといけないから、年休を出さないでくれ！」と言われたとか…。**

1 特では全ての席（ABC席）が埋まらず、2つの席を兼務している状況…。

5月の健康診断も終わりに近づき、職場では深夜勤を健康的理由で外された人もいるし、外れたくても外れられない人もいます。

**このような状況を当局はどのように考えているのでしょうか？**

## 第60回定期全国大会オルグ日程について

2005年6月2日(木)～6月10日(金)

時 間	場 所	分 会
日 勤 11:00～	5階研修室	輸 送
日 勤 11:50～	第1研修室	輸 送 特 殊
日・中勤 12:30～ :40～ :45～	5階研修室	普 通 輸 送 小 包 三 特
中 勤 13:00～ :10～	第1研修室	小 包 二・三特
夜 勤 16:45～ :50～	5階研修室	普 通 輸 送
夜 勤 17:15～	第1研修室	小 包 一 特
夜 勤 17:45～	5階研修室	二・三特
日2 12:00～	5階研修室	共通・計画・計理 (6月10日のみ)

日 刊	<b>新東京</b>	NO 3844	2005年 6月 6日(月)
		日本郵政公社労働組合 新東京支部 編集委員会	
		03-5690-2847	内線 4163

# JPU第60回 定期全国大会の 議案書を読む

## P6～ II 特徴的な情勢

### 1 社会経済情勢

内閣府の景気判断は、好調な企業部門を中心に若干の回復基調を示しつつも、個人消費の不振に伴う家計部門の回復の遅れによって、全体的な景気動向は先行き不透明な状況が続いています。雇用情勢は、失業者数が対前年同月比で21ヶ月連続減少していますが、完全失業率は4.7%(男性5.0%・女性4.2%)と依然高い水準で推移しています。

就任5年目を迎える小泉首相は、郵政民営化のみに固執した政治姿勢を強めており、景気・雇用対策や社会保障制度改革等の国民生活に密着した重要課題や外交問題を先送りしています。こうした中で靖国問題や政府の対応の遅れから中国や韓国の反日感情が高まり、大規模デモや日本製品の不買運動が展開される等、深刻な外交問題に発展しつつあります。

少子高齢社会の進展と団塊の世代が退職を迎えることにより、国民の年金負担が増加する等、人口構成や雇用形態が変化し、世代間格差の二極化が拡大しています。また、貯蓄から負債を差し引いた純貯蓄残高格差が大きくなり、資産面での二極化も同時に進んでいます。

戦後60年を迎え、依然として戦争状態が続くイラク問題や安全保障問題に加え、憲法改正をめぐる議論が今後の大きな政治課題としてクローズアップされつつあります。

## 2 郵政事業の現状

発足から2年が経過した公社の経営は、「アクションプラン・フェーズ1」に基づき、意識と文化の改革を柱に、商品・サービスの改善や人件費・物件費の削減等にとりくみ、その結果、フロントラインにおける組合員の努力も重なって、過去2年間における三事業の損益は黒字決算となる見込みです。

「アクションプラン・フェーズ1」への対応は、中期経営目標(4年間)を確実に達成するため可能な限り改革を前倒しし、改革・改善のとりくみを進めてきました。これにより、公社全体の資本総額と自己資本比率は公社発足時と比較し改善される見通しとなっています。しかし、公社全体の経営状況としては、事業の拡大再生産に向けた成長分野への投資など、増収増益に向けた反転攻勢が今後の課題となっています。

P7～

### (1) 郵便事業

郵便事業は、「ターゲット10」を掲げたゆうパックが、2月末累計で対前年度比約3,064万個増(18.4%増)となり、34年ぶりに引受個数が過去最高を更新しました。また、2004年度の損益についても、当初目標である200億円の利益を達成できる見通しとなっています。一方、コアビジネスである通常郵便物は1月末累計で、対前年度比10億4千万通(▲5.3%)の減と依然として減少傾向が続いています。

IT化等の進展により今後も通常郵便の減少が想定される中で、健全な経営を確保していくためには、通常郵便収入への依存体質から成長が期待できる分野(小型物流、DM等の企業郵便、国際郵便、ロジスティックス)における商品・サービスの改善によって収益構造を安定させることが今後の経営課題となっています。

また、CS向上や商品・サービス・料金の改善、営業力のパワーアップ等により事業の拡大再生産をめざすとともに、黒字経営を確保できるよう柔軟な事業体質への脱皮が求められています。

日  
刊

# 新東京

NO 3845 2005年 6月 7日(火)

日本郵政公社労働組合 新東京支部 編集委員会

03-5690-2847 内線 4163

JPU第60回

## 定期全国大会の 議案書を読む

P17～ アクションプラン・フェーズ2で示された  
新規施策の概要（郵便）

### 1. 郵便内務事務のアウトソーシング

#### (1) 施策概要

窓口、計画事務以外の郵便内務事務について、以下の業務を部外委託することにより計画人員および時間制定数を減員する。

- ・差立作業…取集郵便物の消印、差立区分、輸送容器への納入
- ・到着作業…輸送容器の開披、配達区分、外務職員への交付
- ・転送、返還処理、汚損郵便物の修復

#### (2) 対象局

郵便課計画人員50人程度以上の全普通局

### 2. 郵便内務の10時間二交替制勤務

#### (1) 施策概要

本務者の勤務時間の基本型を「10時間」とし、昼間帯の重複配置ロスを解消することにより要員を減員する。また、本務者の配置を行わない時間帯の作業は、①送達速度に影響を与えない範囲で、原則として他の時間帯へ移行・平準化、②移行が困難な場合は、管理者（責任者）と非常勤職員で対応する。

#### (2) 対象局

アウトソーシングの対象とならない深夜帯勤務を行っている郵便局

### 3. 郵便ネットワークの再構築

（集配拠点の再編：都市部における集中処理局と配達専門局への機能分離）

#### (1) 施策概要

郵便内務職員（窓口関係職員を除く。）は、原則として集中処理局に配置し、配達専門局には外務職員のみを配置する。また、集中処理局には書状区分機等を集中配備し、道順組立・差立の集中処理等を行う。

日 刊	<b>新東京</b>	NO 3846	2005年 6月 8日(木)
		日本郵政公社労働組合 新東京支部 編集委員会	
		03-5690-2847	内線 4163

# JPU第60回 定期全国大会の 議案書を読む

P18～ アクションプラン・フェーズ2で示された  
新規施策の概要の各個別施策に対する本部判断と  
今後の取り扱い（郵便）

## 郵便事業

### a 郵便内務事務のアウトソーシング

公社の考え方は、「郵便内務事務の一部（差立区分、配達区分等）をアウトソーシングし、これにより生み出された要員を小包増加への対応強化等に充てる」としており、17年度は「郵便課計画人員50人程度以上の1局で実験したい」との意向を示しています。

本部としては、要員生み出し策の一つであると考えられるものの、郵便内務関係職員の雇用と労働条件等に密接にかかわる施策であり、引き続き公社との協議を重ねつつ、大会以降、その取り扱いを含め慎重に検討・判断を行うこととします。

### b 郵便内務の10時間二交替制勤務

全国大会以降、公社との具体的交渉に入り、実施予定日が19年3月末であることから、関係職場を含め議論を深めていくこととします。

本部は、交替制職場の労働条件と業務運行等に極めて大きな影響を及ぼすことから、施策に対する本部判断について、しかるべき決議機関に諮ることとします。

### c 配達デポ方式

配達デポ方式は、策120回中央委員会において、2004年度試行の継続と2005年度の試行拡大を決定しました。

2004年度の試行4エリアについては、概ね順調に推移していますが2005年度の試行拡大にあたっては、全国50エリアにおいて、新たな業務運行体制や作業方法等を組み入れた試行となります。本部は、今後の郵便事業における効果的なネット（裏へ）



ワークの一つと考えており、更なる検証と改善を進めた上で、本格実施の判断を行うこととします。

**d 都市部における集中処理局と配達専門局の機能分離の試行**  
都市部におけるネットワークの再編施策である集中処理局・配達専門局の試行は、差立区分・配達区分を行う集中処理局と配達業務の専門局に機能を分離するもので、区分機の集中配備に伴う効率性や、配達等門局の安定した業務運行につながるものと考えます。

本部は、民間との競争力を高め、都市部における郵便ネットワークの再編施策として必要と判断し、本大会終了後、公社と具体的交渉を進め試行実施を行うこととします。

また、一定期間経過後、お客様サービス、労働条件への影響等について検証を行い、本格実施の判断を行うこととします。

#### e 2ネット方式

集配ネットワーク高度化施策として、これまでの新集配システムに集荷を組み合わせ「2ネット方式」として示されています。2ネット方式の実施にあたっては、今日までの新集配システムにおける営業のとりくみ、品質管理、非常勤確保状況等が評価・反省を行いつつ、問題点の改善が必要と判断しており、最大の課題であった職務加算額の特例措置等による非常勤職員の処遇改善が安定雇用に結びついているかを含め検証する必要があります。

その上に立って、公社提案を受けるとともに要求書を提出し、交渉整理をはかることとします。

#### f 物数減等に伴う要員配置の見直し

公社は、この数年間、通常郵便物が年間約6億通減少していることから、物数減による要員配置及び集配区画見直しと2ネットの実施による減員の一部を成長分野である小包配達強化にむけた要員措置を行うとしています。

本部は、事業の将来展望を考えた時、成長分野への戦略的な投資は必要であり、その原資生み出し策として、物数減等による要員配置の見直しは現実的にやむを得ないと判断します。

しかし、小包の増加と長期にわたる欠員等によって、職場は厳しい業務運行となっており、今後、夏期繁忙の職場状況を見極めつつ、万全な要員確保対策や具体的なオペレーション改善等について要求書を提出し、交渉整理をはかることとします。

# 新東京

N03847

2005年  
6月9日(木)

日本郵政公社  
労働組合  
新東京支部  
編集委員会

03-5690-2847  
内線 4163

## 私が思う二小の不思議

第二小包課では、6月1日から運送便が改正され、それに伴い、ゆうメイトさんの12勤が廃止されました。

新たに、10時間深夜勤が導入されて全員がその勤務帯に変更されました。深夜帯に要員を厚くするために変更されたようです。全指定が深夜勤！3連続もあり！

先日の土曜日に、深夜勤のゆうメイトさんが18人出勤予定のところ、8名が突発で休むというこ

とがありました。新しい勤務になって、体調を崩したと思われるが、特に年配のゆうメイトさんが多い職場ということもあり心配です。また、こんな事もありました。差立便の出発時間が迫っていて、少

も多く的小包を結束に間に合わせようと一生懸命パレットに積み込んでいたところ（臨時便対応にならないように）、「どうして指さし確認をしないんだ！」と管理者にこつぴどく叱られたそうです。

小包部では誤区分防止のため「指でなぞって声を出して、指さし確認」ということが行われていますが、結末に追われてる状況の時は無理があります。ゆうメイトさんに「結束が大切なのか、指差し確認が大切なのか、どっちなのですか？」と聞かれます。局はどちら

ようが・・・積み込み担当者印について、然り。まじめに押し、た時に責任を問われて、しい加減？にやっつけて押印しない人は何も言われな

い。これで誤区分は減ったのでしようか？思った以上

の成果は上がってない。い様なのですが。

便の協定台数について、も不思議だなあと、思うものがあります。午後配結

束3号便の協定台数が3台しかない便があります。

その50分後に出る補助便は6台協定台数があるのですが、50分では6

台ものパレットは出来上がりがありません。チルドがあ

って、有証があつて、どう考えても逆の協定台数でなければおかしいので

はないでしょうか。以前から指摘しているのです

が一向に改善されません。区分する時も、郵便番号で区分するように指導

だれていきます。

しかし、郵便番号の間違ひが多くみうけられます。

この件についても、最終的にパレットに積み込む際に、町名区分をするべきだと指摘しているのです。『番号区分でいい』との返答。それで、とん

でもない誤送が発生する。なんか不思議ですね。

ゆうメイトさんにも『町名区分の方がいいんじゃないですか』といわれる始末。

さて、ゆうメイトさんに10時間深夜勤が導入されて一週間が経過しました。顔色を見ると土色？に変わっています。

『12勤に比べると疲れ方が半端じゃ無い』『昼間は眠ろうとしても眠れない』『朝方になると集中力に欠ける』『この勤務を続けられるか自信がないよ』等々の声を聞きます。

仕事やり方も不思議、人間性無視の勤務も不思議！(二小分会投稿)

日 刊

# 新東京

NO. 3849

2005年  
6月13日(月)

J P U  
新東京支部  
編集委員会

03-5690-2847  
内線 4163

## 「ふ」の字もない・・・?

### 「職場の声 元気に広がれ」

全国大会に向けての意見集約をするために、二特分会は6日に分会会議を10名でおこないました。

そこでは以下のような意見ができました。この声を、支部委員会に反映させて

いくために、私たちはがんばります。

#### ・職場がなくなる?

・まずは、民営化には絶対反対でのぞんで欲しい

・アウトソーシング(外部委託)がフェーズ2で語られているが私たちやゆうメイトの雇用と労働条件を守っていけるのだろうか

・これまで培ってきた仕事のノウハウは、どのようになつていくのだろうか

・組合員が減少するようになる 組織拡大をする職員やゆうメイトもいなくなつてしまう どのように考えるのか

・外見は公社で、中身は民間ではおかしいS急便と同じようになつてしまう

・新たに天下り会社をつくるようなものでは・・・

### ・今以上悪くなる 労働条件？

- ・10時間2交代制はどのように構想しているのかわからない
- ・8時間労働を求めてきた時代に反している
- ・これだけきつく苦しんでいる深夜勤の「ふ」の字もないのはおかしい
- ・これ以上の労働条件の悪化に反対
- ・まずは、深夜勤の拘束時間の短縮(カット時短)、休息時間のゆうメイトも含めて大幅な拡大、回数削減の声を上げてほしい

### ・まだまだ減員？

- ・業務量が減ったからといって、職員を減らすのは納得できない
- ・二特でも配達記録やエクスパック500は、増えているし、記録の有証扱いなど付帯作業が著しく増えている
- ・算出基準をはっきりさせていない
- ・支部はJPSと窓口をもつて直接交渉をしてほしい

### ・そのほかには

- ・議案書の各案件も具体化されたら話し合う時間もなく、すぐ導入となってしまう
- ・フェーズ2はもつと前からわかっている 組合としてわかっているかぎり早期に説明をすべきでは：
- ・こんなにモチベーションがなくなってしまうといいものか
- ・職場の働きがい(ES)がこれで高まるのか

以上

(投稿)

日 刊	新東京	NO. 3850	2005年6月14日 火
		日本郵政公社労働組合 新東京支部 編集委員会	
		03-5690-2847	内線 4163

## 冷房入れてくれっ！！

窓口課は泣いている②

ある日曜日の午後、窓口のインターホンが鳴った。相手はお客様でこんな会話のやりとりがあった。

お客様「切手が欲しいんだけど。今、私書箱の前にいます」

私「わかりました。今局舎の一番奥にいますので、そちらへ向かうのに3～5分かかりますのでお待ちいただけますか？」

お客様「わかりました。待っています」

受話器をおろすと急いで釣り銭と切手、それに領収書を用意して自転車「窓口号」で私書箱へ向かう。もちろん全開走行だ。この時点ですでに5分が経過している。ウルトラマンならカラータイマーも止まっているだろう。カップ麺ならのびきっている。

一通り切手、料金のやりとりが終わるとお客様は私の胸章を確認しながら、

「〇〇さんに文句を言うつもりはないけれど、なぜ私書箱室内は冷房が効いていて、お客様のいるロビーはこんなに暑いのか？局のえらい人に言っておいてよ」と言われた。

私は何年も前からお客様の声としてあげています。窓口は大変暑く、お客様の目の前で書留郵便物に汗が垂れたこともあります。窓口にしても私書箱室前のお客様ロビーにしても夕方になると西日を受けて最悪の状態になります。真夏の窓口ではお客様は汗を垂らしながら順番を待っているのです。こんな郵便局が他にありますか？新東京郵便局はとてもお客様第一とは言えません。

これから夏、どぶ川から飛んでくる蚊と暑さを思うとゾッとします。

私は毎年言っています。お客様が来る窓口や私書箱ロビーに冷房を入れてもらいたいと。

お客様に文句を言われるのはえらい人ではなく、私なのだから……。

(投稿)

## 第38回支部委員会

### 開催される！

6月13日、初夏を思わせる熱さの中、第38回支部委員会が開催されました。

大会議長に木村代議員(2特)、委員会書記長に手塚執行委員、委員会書記に石井青年部長を選出し、議事が進行されました。

『秋山支部長挨拶』  
支部オルグ、のべ44回、420名の参加がありました。分会の皆さんの協力に感謝します。アクションプランフェーズIIについて、情報が

一人歩きしないようにしたい。1/1/6/1に58名加入し、今日も3名の加入報告がありました。小包に牽引されてますが、各分会の協力をよろしくお願い致します。

#### 〈質疑討論〉

↓アウトソーシング

・支部は反対だが、支部と本部との間に温度差があるようだ。(2特)  
・職場が無くなる！(2普)  
・具体的に話がおきてきたら反対出来ない状況になるので

は…不安だ。(2特)

・ゆうメイトの立場も考えて(3特)

・プレ民営化のようだ(3特)  
・窓口のアウトソーシングの  
・写真はあるのか。(郵窓)

・ゆうメイトより低い賃金で民間導入。大丈夫だろうか(2普)

↓アクションプランフェーズ

2

・2007年度の退職者の数を本社、支社は把握しているのか(1輪)

・意見、要望書は日刊で出すべき(2特)



↓深夜勤

・議案に何も書かれていない！手当の改善要求はどうなったのか。(2特)

・深夜勤の改善が全く見られない。流されないような発言をお願いしたい。(2特)

↓10時間2交替勤務

・支部、反対だが、強く上部に言って欲しい。(1小)

・10H体力的に厳しいと思う。固定者が増えそう。(3特)

・穴の空いた時間は管理者…とあるが(1特)

↓ゆうメイトについて

・深夜が10h深夜になった。ゆうメイトだから…と軽視してはいけない。(1小)

・こんなにキツくて、賃金も下げられて…ちゃんと働いてくれるのか？(1普)

・再任用職員、勤務地、職場の変更は出来るのか。

↓その他

・要員について、JPS各課1名供出。交渉でどうなっているのか。(2特)

・特殊は物数が減っているが、エクスバック、配達記録等の付帯作業が増えている。(2特)

↓裏面にフブク

〈表面のつづき〉

- ・有証配達記録を郵袋で差し立て。ケースは？赤蓋は？(2特)
- ・計年を入れると、他の人が年休を取れない。(3小)
- ・民営か反対1000万人署名はどうだったのか(2特)
- ・年末手当、差が広がるのでは…(業務精通手当)(2特)
- ・管理者のスリム化は？(1普)
- ・固定に落ちて、深に復帰した時の手当保障は。(2普)
- ・ゆうメイトの処遇をもう少し上げてもらいたい。(1輪)
- ・JPSを一人歩きさせないような運動を。(1輪)
- ・オルグ内容がまちまち…支部で認識統一を。(1普)
- ・組合員に話す事で良い話が少ない。(2小)
- ・輸送費削減で運転手の質が低下している。(2輪)
- ・不払い労働、今も職場にある。新しい施策で仕事が増えている。(共通)

《支部答弁》

アウトソーシングについて、

民間に丸投げしていいのか。羽田でも試行しているが、当初事故が多発した。民営化反対の中、いかなるものか。

窓口の青写真は示されていない。

10H交代制

今現在抱えている深夜勤の見直し改善が優先。改善を求めていく。

支部見解、了として意見を考える。

『事業は厳しい…』と本部書記長。本部の考えは議案P15を参照。フェーズII実施で事業発展築くと言っている。作業量に見合った要員見直しについて、プランは局としてあるようだが、きちんとさせ局に求めていく。

2007年度団塊世代問題について課題が山積している。

今の新東京の現状を業務だけでなく生活と労働実態について意見反映していく。10H勤務は新東京に入らない。

ゆうメイトについて

要員が集まらない事が問題になっている。昨年支社応援があった。業務量と要員のミスマッチ含め意見反映する。

非常勤の処遇向上、支部大会に向けても考えていく。

ゆうメイトのフォロー、雇用のあり方等、具体帝に求めていく。

1000万人署名はJPU、全郵政、特定局長会も参加。

年築手当について

早期に明らかにしたくない。全国大会での結論に

は無理がある。職場会議にかけ、丁寧な論議を。

12/29、1/3とあるが、それぞれの職場で繁忙期が違う。

組合員一人一人がどう考えているか、重く受け止める。

支部としても努力してJPSのあり方も論議していく。

深夜勤から固定に落ち、深夜勤に復帰する時の手当については、現給保障で支給されていなかったが、本部、本省間で交渉している。決まったら日刊等でお知らせします。

以上の質疑に対して支部としてオルグ、日刊等で見解を示している。本日出された職場実態を踏まえて地方委員会、全国大会に意見反映をしていきたい。



日  
刊

# 新東京

NO 3852

2005年 6月16日(木)

日本郵政公社労働組合 新東京支部 編集委員会

03-5690-2847

内線 4163

## 第15回支部ゴルフ大会は、

# さん(二普)が優勝!

### チャリティー募金に25,000円

支部結成以来、毎年恒例行事の「新東京支部第15回ゴルフ大会」は6月6日、セベ・バレストロスゴルフクラブで開催されました。当日は、絶好のゴルフ日和に恵まれる中、霞ヶ浦湖畔の丘陵地に展開するテクニカルな上級者用のコースに34名がチャレンジしました。開会式では、競技委員長の さん(二普)からルール説明が行われました。参加者は、ニアピンとドラコンホールを確認しながら、笑顔の中にも闘志を秘めながら、アウトとインコースに別れてスタートホールへ。

あるキャディーさんが言いました。“このコースは、ちょっといやらしいですよ。奥さんを口説いた時を思い出して攻めて下さいネ…”アウトコースはほとんどが池がらみ。インコースも名物のウッドバンカーがあったり、グリーンはベントのワングリーンで大きく、難しいコースでした。

競技結果は、二普の さんが、優勝の栄誉と賞品の高級キャディーバックを獲得しました。「新ペリアのハンディーには、いつも恵まれず優勝したのは初めて。同伴者にも恵まれた」と、嬉しそうに勝利者インタビューに応えてくれました。準優勝は、久しぶりにプレーをしたと言う三特の さん(賞品:ポストバック)。第3位は、手堅いプレーの二輪送の さん(賞品:ミズゴルフシューズ)が入賞しました。



ルポ ヤマト運輸現場体験記

月刊労働組合（労働大学）より

## 睡眠も犠牲、家族も犠牲に

二〇〇四年一二月の年末繁忙期に一ヶ月間仕事をやる機会を得たルポライターが、そこで働く人達の労働環境と生の声を報告したものである。

### 一五時間労働が常態化、二四時を超えた帰宅日も

ヤマト運輸の朝は早い。年末繁忙期の従業員は七時前には出勤している。営業所に大型トラックの専用便が来るのを

待ち、届いた荷物を仕分けし、八時三〇分には宅配に出発する。昼過ぎに営業所に帰って昼食をとり、午後に届く荷物を再度仕分けして再び宅配に出かける。最も遅い宅配指定時間帯は夜八〜九時なので、それが終わってからその日の報告をまとめると午後一〇時を過ぎる。つまり一日一五時間の労働が常態化しているのだ。

場合によってはさらに残業が続く。「昨日は家に着いたら二四時をまわっていた」という会

話は珍しくない。そう言いながら朝七時前には出勤しているのだから、一体何時間眠っているのだろうか？

だから従業員にとって、この時季の最大の的は風邪である。

風邪を治すには寝るのが一番だが、この仕事を続けている限り、寝る時間は保障されない。

風邪だけではなく。家族団らんも犠牲になる。小さな子供を持つ従業員は「一月二五日に「昨日は子供から『クリスマスアイブだから早く帰ってきてね』と言われたけど、結局帰宅したのは二四時近かった。子供達は『眠たい戦争』に負けたと言いつつ寝ていた」と語っていた。小さな子供の話題が多いのは、従業員の平均年齢が若いからである。

職場は二〇〜三〇代が多く、途中入社したので、「今年が初めて年末繁忙期を迎える」と言う

ものも少なくない。仕事のチーフはほとんど三〇歳過ぎだ。この長時間労働と重労働（腰痛）に耐えられる年齢と言うことだろうか。四〇歳を超えて働き続けている者はこの仕事になじむことができた人ということになるが、その数は少ない。

### 会社なのか組合なのか、闘う相手は”郵政公社”

ある日、職場に労組のニュースが配られた。上部産別組織である運輸労連とヤマト運輸労組の機関紙である。

ヤマト運輸労組のニュースは、団結して闘おうと呼びかけていた。だれを相手に闘うのかと言え、それは会社でも政府でもなかった。闘う相手は「一秒でも長く国家公務員でいたいと願ってばかりいる日本郵政公

社とその支援者」だそう。つまりヤマト運輸労組の主要な敵は、日本郵政公社とその職員労組（JPU）や民営化反対の国会議員（与野党を問わない）なのである。そう言えば、ヤマト運輸労組が先の総選挙では小泉首相を推薦したという話を思い出した。

### 同業者にも”ご苦労さん”働く者同士の交流大切に

とは言え、仕事をしていると同業他社である日通や佐川急便の従業員や、さらに自営の赤帽や日本郵政公社の職員とも出会うことが多く、顔なじみになる。天候不順の日はすれ違い時、おたがいに「ごくろうさん」「今日は寒くてつらいね」と声をかけあう。競合会社員としてライバル視しているのではなく、同

業者としてねぎらいあっているのだ。

会社同士が競い合うのは当然だが、労働者が競い合う理由はない。むしろ同じ業種に働く者の統一行動や連帯がもつとあっても良い。

私はヤマト運輸での経験を何人かのJPU組合員に話をしたが、ヤマト運輸の実態を具体的に聞くのは初めてだと言われた。ヤマト運輸の組合員も郵便局の職場実態を具体的に知るものはほとんどいない。

郵政民営化問題は政策的に語られることが多いが、労働者にとっては安心して働ける職場をどう作っていくかという視点に立ち、郵政事業や物流業界に働くものがお互いの状況をもっと交流し合うことから始めたらどうかと願う。

# 新東京

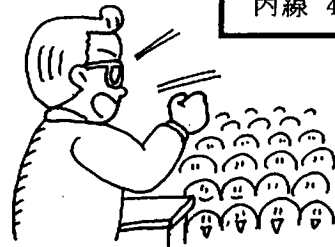
NO 3856

2005年  
6月22日(水)

JPU新東京支部  
編集委員会

03-5690-2847  
内線 4163

## 本日より全国大会、 職場の声を反映して 実りある大会に……！



本日、第60回定期全  
国大会が奈良で開催さ  
れます。

新東京支部からは、  
秋山支部長が代議員、  
傍聴で下山副支部長・島  
村書記長・石塚執行委

員・尾形支部青年委員が  
大会に参加しています。

先に開催されました支  
部委員会でたくさんの分  
会の意見、要望が討議さ  
れました。

民営化問題、アウトソ

シング、10H交代制勤  
務、アクシヨンプランフェ  
ーズII、そして深夜勤の  
改善等、問題が山積して  
います。

大会代議員の活発な論  
議に期待すると共に、私  
たち新東京支部の労働実  
態を全国大会に反映して  
もらいたい……！

全国大会速報は、後日  
の日刊にて掲載します。  
ご一読を！

やるほど！



日 刊	新東京	NO. 2858	2005年6月24日 (金)
		日本郵政公社労働組合 新東京支部 編集委員会	
		03-5690-2847	内線 4163

## 夜間交替制加算額の現給保障の 取扱いについて

減給保障に関わる問題点については、東京中郵支部より組合員が減額された事例から改善を求められていました。

東京地本は、協約及び給与制度と照らし合わせ、東京支社と交渉を行い、さらに中央本部へ協約の不備、改善を求めてきました。

中央本部もこれまで本社に協約の不備を指摘し、減額保障の取扱いについて労使協議を重ね最終的に、この提案内容を引き出し、改善を図ってきたところです。これはJPUの問題提起と交渉により改善を行ったものである。

標記、夜間交替制加算額を受けていた職員に対する現給保障の取扱いについて、改善提案があり、本部はこれを了承したので周知する。

概要は、支給要件に該当しなくなった職員が、再度、夜間交替勤務に復帰した場合、支給要件に該当しなくなったために減ぜられていた加算額相当分の現給保障を回復させるというもの。

ただし、この取扱いは、下記理由によるものとなった場合に限る。

- ①育児休業（産前産後休暇を含む）
- ②専従休職
- ③公務傷病等による病気休暇及び休職
- ④私傷病による病気休暇（病気休暇ではなく一時的に深夜帯の勤務空 外れた場合も含む）
- ⑤介護休暇

現行制度では、夜間交替勤務から外れた場合、当該加算額の減少分について、現給保障を引き下げられ、その後夜間交替勤務に復帰しても現給保障額は回復しない仕組みであった。今回の取扱いの変更は、一時的にやむを得ない理由で勤務を外れる事例を想定し、一定の配慮を行うべきととして労使協議を重ねてきたもので、最終的にこの提案内容を引き出すに至ったものである。

適用日は平成16年4月2日に遡って行わせることにした。

なお、具体的支給事務については、今後、取りまとめを行い、再計算の上、準備でき次第支給することとなるので承知されたい。

# 郵政民営化法案の 廃案・否決へ向け全力を

## 【第60回定期全国大会報告・速報版】

6月22～23日、奈良市・なら100年会館において、日本郵政公社労働組合第60回定期全国大会が開催されました。オープニングは、5月15日に有明コロシアムで行なわれた「ストップ・郵政民営化！怒りの反対宣言1万人集会」と「衆院・郵政民営化特別委員会」に参考人として招致され、意見を述べている菺田委員長のビデオがスクリーンに映し出されました。舞台には「STOP！郵政民営化 まもろう みんなの郵便局」の横断幕が掲げられ、郵政民営化反対の総決起大会にふさわしい演出でした。

地元・近畿地本・山協委員長からは、「今大会の成功が国民の財産である郵政事業を守り、育てることにつながる。歴史ある奈良の地で私たちの総意を内外に示そう」と歓迎挨拶を受けました。国会開会中の為に民主党・川端幹事長と衆院・郵政特別委員会に呼ばれている生田総裁から挨拶がありました。奈良県知事・奈良市長歓迎挨拶の後に大会議長に宮本代議員（近畿）、副議長に山田代議員（信越）・唐戸嶋代議員（東海）が選出されました。

### 菺田中央本部委員長の挨拶（要旨）

「昨年の旭川大会以降、非常勤職員の組織化を本格展開し、7年ぶりに組織純増を達成し大会を迎えることができた。アクションプランに基づく改革の成果と職員・組合員の懸命な努力によって三事業とも2年連続黒字を計上した。新賃金交渉の2年連続の自主決着、夏期手当交渉におけるプラス1万円の公社の決断は高く評価すべき。本年は戦後60年の節目。歴史認識や靖国参拝問題を契機に反日感情が高まるなど深刻な外交問題に発展しつつある。衆参憲法調査会が最終報告をまとめたが、私たちは、憲法が果たしてきた平和主義、主権在民と民主主義、基本的人権の尊重を基本に連合の中でしっかり運動を進めたい。台風・地震・津波災害の度重なるカンパの協力に感謝。郵政民営化問題については、少子高齢社会が深刻化する日本にとって郵便局は社会生活に必要不可欠。郵便ネットワークは世

界に類例のない日本の「知恵」と「文化」、この国民共有の資産は政治が活用すべきであり、郵政事業人が守るべき財産。いま闘わずしていつ闘うのか。いま声をあげなくていつあげるのか。いま部内の力を合わせなくていつ合わせるのか。まさに今がそのときである」

菰田委員長は最後に、「国民の利益にならない、理念なき郵政民営化反対に向けて団結ガンバローで大会構成員全体の意志を確認し、全国特定郵便局長会の高橋会長から、ともに闘う連帯挨拶を受けた」と挨拶を締めくくりました。全特・高橋会長と連合草野事務局長からの力強い挨拶の後には、各政党、郵便局ファンの会・岡野会長、JPU議員団からの挨拶を受けました。自民・公明両党代表には、政治学者である岡野会長の痛烈な批判が行われました。

今大会は、民営化対応の最終局面の最大のヤマ場にあつて、大会会期を2日間とし、初日の午後から2日目の昼にかけて、延べ20名の代議員から活発な討論が展開され本部の最終見解を確認し、「郵政民営化法案の廃案を求める特別決議」が採択され閉会しました。

## 大会討論は、郵政民営化反対のとりくみ、 アクションプラン・フェーズ2への対応、 組織拡大・非常勤の処遇改善等に多くの発言

東京からは、大槻・中西の両代議員が、地方委員会で取りまとめてきた意見を発言しました。発言の要旨は…「東京全体で356名の本務者と短時間職員、582名の非常勤、合わせて938名の新規加入の仲間を結集、組織純増で大会を迎えた。現在も拡大行動を展開中。非常勤職員の問題は組織化をしていく中で解決を目指したい。非常勤職員から本務者への登用の実現、処遇改善等、より一層の交渉強化を。職場は施策に継ぐ施策に追われている。欠員補充・非常勤職員の採用ができていない局所も多い。要員と業務のミスマッチの是正、正常な業務運行確保が急務。勤務時間見直しによる健康不安、家庭生活の影響は大きい、フェーズ2の検討は、これらの問題の解決してから。郵便事業の信頼を失いかねないアウトソーシングと深夜勤の拡大につながる10時間二交代制勤務には反対する。他の個別施策は、職場との丁寧な往復運動、組合員が納得できる交渉整理を。年末始繁忙手当の見直しは、繁忙期の労働実態トータルを考慮し、区分・配達能率向上手当、業務精通手当の実態の改善が必要、職場討議保障を。正念場の民営化問題、本部の力強い指導のもと全力を挙げる。」

各代議員からの発言は、

- ①郵政民営化反対のとりくみに関しては、全国・各地方の様々な企画等を報告する内容の発言がされ、チラシの全戸配布・キャラバン行動・組合員集会など本部指導に基づき、精一杯とりくまれてきた様子が良く分かりました。
- ②アクションプラン・フェーズ2への対応に関して、「まず、フェーズ1の評価と反省は、数値だけでなく、職場実態の検証をす

べき」「聖域なき改革となっているのか。傷みは労使が共有すべき」「議論は継続し、慎重な対応を」「アウトソーシングは、対象局は非常勤化が実施、モチベーションが落ちる」「10 H二交替は、勤務時間見直しのアフターフォローの途上であり反対」「深夜勤は、健康に留意して要望に応えた再度の見直しを」「慢性的な非常勤不足の現状是正を」「フェーズ1の経過を検証したとき、現場に不安が多い。机上の施策となっていないか」…等、多くの代議員から職場の現状を反映した発言がされました。

③組織拡大と非常勤の処遇改善等に関して、「近畿では、非常勤職員をこの1年間1,734名拡大し、非常勤組合員は3,222名となった。役員だけの運動になっていないか。情報は伝わっているか。悩みは聴けているか。等の職場点検をしていく」「仲間意識が大切と考える。九州では新採65%、非常勤は目標の150%組織化した」「関東は、73%の新採を組織化。頑張っているところの教訓を上げてきた」「本務者の拡大、未加入者を許さないとりくみを」…等、多くの成果、非常勤の処遇改善を求める発言がされました。

④輸送関連職場の雇用問題、簡保加入者施設のあり方（存続）、等の本部対応に関して、さらなる強化を求める意見についても、多くの代議員から発言されました。

⑤人事評価制度に関して、「制度本来の機能を果たせていない。評価者への不信感は強い。要員不足により業務精通手当の通区率向上に取り組める機会平等になっていない」「管理者の意識改革と教育の徹底を」…等。

⑥JPSに関して、「管理者の目的と理念の理解不足がある。」「スタンディングワークの中止を申し入れるべき」「浸透と落とし込み不十分なのは、上意下達の文化にある」「合意形成と現場の知恵を活かすものとなっておらず、非効率な内容になっていないか。本部見解を改めて示して欲しい」…等、多くの発言がされました。

大会2日目の6月23日には、「沖縄慰霊の日」にあたることから、1分間の黙祷を行ないました。午後からは各代議員の発言を受けて、中央本部の最終見解が示されました。

## 〈中央本部見解〉

\* 非常勤の組織化については、試行錯誤や様々な論議がされたと考える。労働組合の原点に立ち返り、なぜ組合が必要なのかをもう一度考えて今後も取り組んでもらいたい。組織化は、組織目的を達成するための基本動作。民営化対応に全力を挙げ、処遇改善へとつなげていくために、次年度は2万人の非常勤の組織化を目指す。JPUは、本務者組合員だけでなく働くすべての労働者の雇用と労働条件に責任を持つ労働運動へとチャレンジしていく。複合型労働力構



成職場に応じて、非常勤・短時間職員の組合員からの役員への登用等も検討を。JPUの未来づくりのため、10月14日～15日・つま恋でポジティブ・アクティブ・ユースフェスタを開催し、全国の青年部が一同に集う交流を行なう。

\* フェーズ1は組合員の努力により、減収となっているが三事業とも黒字となり、ゆうパックシェア7%、民営化論議に論拠をつぶし、処遇と成果配分の向上に寄与したこと等の成果を正しく評価したい。発言にもあるようにオペレーション基盤の現状等の問題点も多くある。減収減益の中身は1種の5.3%減等このままでは縮小再生産に陥り、郵便では毎年5～6千人の人員費が失われていく。フェーズ2は、痛みもあるが、成長分野の小包で3,000名の増員もある。トータルの評価・判断として、積極・能動的対応していく。

\* 業務基盤確立の課題は、年末の評価・反省を厳しく求め、小包物増対策に継続し、夏期繁忙も検証し、必要な処遇改善も求める。今後、小包(3)対通常(7)の割合に持って行く。リニューアル後の数値に基づく検証と改善を求める。

\* アウトソーシングについては、①雇用の確保・安定、②職歴の活用、③品質の低下の有無、④実験の位置づけ、等に関する公社の考え方を引き出していく。

\* 10時間二交代制勤務については、必要制の有無、労働条件と業務運行のあり方等、今後公社との交渉の進捗状況を論議し、判断は決議機関にはかる。

\* JPSについてはゴールの見えない施策、生産性向上のため必要な施策だが、公社独自のJPSを求め、なお一層現場の声を取り入れて行くよう求める。

\* 不払い残業、出た時の厳正な措置をとるよう、公社へ強く求める。

\* 内外職種の流動化については、内外格差の是正、将来の要員格差を穴埋めするため、評価システムの確立が必要。

\* 人事評価制度のあり方は、正しく運用され、業績の向上と職員満足度の向上に資するものとすべく、評価者教育の徹底を強く求めて。

\* 再任用、希望者が全員採用が本来の姿。強く問題意識を持って、実態と併せて公社と交渉をしていく。

\* 憲法が果たしてきた平和主義、主権在民と民主主義、基本的人権の尊重を基本に連合の中で運動を進める。

\* 民営化対応、20年間の政制運動のすべてをこの闘いにつけていく。今後の政治動向は予断を許さない。本部も思いは一緒、心をひとつにして郵便局はを守る。国民の声を政治に反映していくのがJPUの努め。できることは何でもやるという気持ちで、悔いのない取り組みを行なっていく。今大会以降、全国の支部長名でハガキ要請行動、国会請願行動等も考えている。

\* JPU運動は、全国に張り巡らされた仲間つながりが大きい。全国で「未来づくり宣言」をこれからも実践と展開をお願いしたい。

以上

大会の詳細は、来週発行の「JPU新聞」特集号を参照願います。

日 刊

# 新東京

NO. 3860

2005年  
6月28日(火)

日本郵政公社  
労働組合  
新東京支部  
編集委員会

03-5690-2847  
内線 4163

## JPU第60回全国大会

### 〈大会後記〉

昨日の日報報告にあったように第60回定期全国大会は、2日間の日程で終了した。「郵政民営化反対」の意思結集をはたした良い大会だったと思う。

反面、全国的に見て様々な課題も現れた。アクシヨンプラン・フェーズ2への対応、職場では日々進められているJPSの問題点、輸

送職場に進められている効率化・賃金引き下げ等々である。大会論議を通じて感じた点を記したいと思う。

第一には「JPS」である。日々職場で改善・改革を進めていくのは当然の意思はあるが、全国的な意見としても職場への落とし

込み管理者の理解を得る説明などが非常に不足しているとの発言が多かった。当局でもその傾向は強くしているとの思いが消えない。

第二には、日逓を始めとする輸送労働者への賃金切り下げ・労働条件の低下を公社は責任を放棄し、丸投げしていることへの怒りである。今後、「300km以上の路線」に対する競争入札の導入は企業の存続すら危うくしている。

あらためて、「郵便は輸送なり」の原則に立ち返った、公社としての責任を求めたいと思う。

様々な運動課題を学んだ大会だった。

(2特・S)